

学校 通信 3-8	 かけはし	教育目標 ○学び合う子 ○つながり、 支え合う子 ○たかましい子	武蔵村山市立 第九小学校 校長 村山 博子 令和3年12月1日
-----------------	--	--	--



学習発表会を終えて



副校長 日吉 英智

先日の11月26日(金)・27日(土)の2日間、第九小学校では初めての学習発表会を実施しました。いかがだったでしょうか。現在、アンケートを配布してありますので、是非、忌憚のない御意見をお寄せいただきたいと思います。

これまでの「学芸会」ですと、劇中心の発表会になりましたが、「学習発表会」とすることで、劇だけにとどまらず、学習したことを発表する場としてバリエーションが広がったと思います。3年生のような音読劇であったり、4年生のような音楽発表会にも近い内容だったり、その学年の色に合った発表内容だったのではないかと思います。1・2年生は、低学年らしい劇になっていました。そして、5・6年生は、劇でも歌を交えたミュージカルに挑戦しました。各学年の発達段階に応じた内容を担任が考え、練習を積み重ね、御覧いただきました。終わった後の子供たちの反応からは、概ね、自分の役をやりきったことで満足した様子や目的を達成した喜びが伺えました。この満足感や達成感を味わうことに大きな意味があると感じます。

この日々の努力を継続し、それが力となるということは、何も大きな行事に限ったことではありません。日常の学習にも言えることと思います。学校で各単元の終わりに行うワークテストでは、日々の努力の積み重ねが大きく影響します。もっと大きなことでお話しすれば、大人になってからも仕事をするために、それまでに日々、努力を続けるわけです。

大きな行事は特別な感じがしますが、学校の教育活動の中では、決して特別なことではなく、日頃の学習の延長とさせていただき、この経験が成功体験となり、子供たちの成長につながってくればと私たち教員は常に願っております。

また、小学校の教育は、子供たちのいろいろな可能性を見出すことも大事な場だと私は思います。自分の得意なことを伸ばすという経験も大事ですが、「今までやったことのないこと」、「今まで苦手だと思っていたこと」が、実は、自分がやってみてできることに気が付くことがあるのも学校教育の現場で大事なことだと思います。(すべてがそうではありませんが。)

私事で大変恐縮ですが、私は小学生の頃はとても引っ込み思案で大人しい子供でした。自分から積極的に人に関わることができず、友達を遊びに誘うことはほとんどなく、誘われるのについて行く子供でした。しかし、中学生の時に学級委員をやったことをきっかけに人前に出て意見を言ったり、自分の考えを提案したりできるようになりました。

大きな行事は終わりましたが、日々の学習は続きます。子供たちには、自分が苦手だと思っていることにもチャレンジし、新しい自分の力を見付けてくれたらうれしく思います。そのためにはちょっとやって諦めるのではなく、粘り強く継続して取り組む姿勢が必要ですね。